

令和 8 年度第 2 回岐阜市立新大学準備委員会 議事概要

【日 時】 令和 8 年 8 月 18 日（火）14 時 00 分～15 時 50 分

【場 所】 岐阜市役所 6 階 6-2 会議室

【出 席 者】

（委 員） 杉山 誠委員長、廣田 孝昭副委員長、河野 廉委員、
棚橋 武司委員、中田 晃委員、大田 康雄委員

<欠席>

斎尾 直子委員、吉田 俊介委員

（オブザーバー） 原岐阜市公立大学法人理事長兼岐阜薬科大学学長、久富同法人副理事長兼同学事務局長、伊藤女子短期大学事務局長、
杉原企画部長

（事務局） <企画部>

小川大学改革推進課長 他

<女子短期大学事務局>

藤田総務管理課長、大西新大学設置推進課長 他

1 事務局からの報告、新任委員挨拶

○事務局（小川大学改革推進課長）

はじめに、委員をご紹介します。

岐阜県高等学校長協会から、副会長の棚橋委員にご出席いただいています。棚橋委員から、一言ご挨拶をお願いします。

○棚橋委員

岐阜県高等学校長協会副会長で、現在、岐阜県立岐山高等学校の校長を務めている棚橋と申します。前任の小野委員の後任を務めることとなりました。名簿を拝見すると、私は高校の代表として呼びいただいたということかと思います。微力ではありますが、精一杯務めたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

○事務局（小川大学改革推進課長）

ありがとうございました。棚橋委員には、高校や高校生の立場から、今回の高等教育の改革について貴重なご意見を頂戴できるものと思っております。どうぞよろしくお願いします。

本日の会議は 8 名中 6 名の委員がご出席ですので、会議の成立要件を満たし

ていることを申し添えます。

また、オブザーバーとして、岐阜市公立大学法人から原理事長と久富副理事長にご出席いただいています。

それでは、ここからの進行は杉山委員長をお願いします。

2 議事

○杉山委員長

それでは次第に従って議事を進めたいと思います。

最初に、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

◆今後のスケジュールについて

(事務局から資料に基づき説明)

○杉山委員長

昨年度、この会議で岐阜市立新大学基本計画についてご検討いただきました。かなり良いものができたと考えていましたが、諸処の事情が変化した中で、前回の第1回会議において、方針変更をしたとの説明がありました。

一つは、市立大学の統合ということで岐阜薬科大学と統合すること、一つは、新大学の設置から新学部の設置に変更したこと、もう一つは、理系の学部を作ることが大きな変化であったかと思います。

それらを踏まえて今年度はこのスケジュール感で進めることとし、本日この第2回会議で、前回の皆さんのご意見を踏まえて基本計画に加筆したものを検討し、その後、パブリックコメントを行うということでした。

前回もお話ししましたが、もう一つ大きな変更点は設置の時期が早まったことです。令和11年度開設を目指しているとのことですので、ほとんど時間がなく、来年度中にすべて終わらせるためには、今年度すぐにでも文科省に相談し始めなければならないくらいのかかなり厳しい日程です。

本委員会としては改革の方向性や基本方針をある程度議論してきており、本日、皆さんのご意見を踏まえたものが提案されているので、これを少し検討したところで、この委員会の最初の目標、ミッションはある程度達成できたのではないかと思います。すぐに具体的な内容に入っていないと間に合わないということもあるため、今回をもって本委員会での検討は終了したいと思うのですが、いかがでしょうか。

ご意見がなければ、今回の議論をもって本委員会を閉じることとし、基本計画は今回の意見を反映した形で最終的な形とさせていただくことでよろしいでしょうか。ご異議はありませんか。(異議なし)

それでは、今回をもって岐阜市立新大学準備委員会を閉じるということで進めさせていただきます。

それでは、このスケジュールで進めていくにあたり、前回頂いた基本計画の改定案について検討していきたいと思います。

議事（２）について、「岐阜市立新大学基本計画」の後にある括弧の部分が重要ですが、市立大学の統合及び新学部設置に向けての改定案の提示ということです。それでは、これについて修正点を中心に概要を説明いただけますでしょうか。

◆岐阜市立新大学基本計画（市立大学の統合と新学部の設置に向けて）（案）について

（事務局から資料に基づき説明）

○杉山委員長

ご説明ありがとうございました。前回の会議では、国の全体的な情勢を最初に強く出されましたが、市の方針や、市がどのように考えて新しい大学を作るのかといった政策が必要ではないか等のご意見があったかと思います。それに対し、今の説明で、初等・中等・高等教育を一貫して持っている強みを市の基盤とし、市の活性化に繋げていきたいという方針をお伝えいただきました。

また、理系へのシフトとありつつ文理融合という言葉が出てくることについてどう整理するのかという意見に対しては、教養教育の中でしっかりと文系的、社会科学的要素を入れながら文理融合を果たしていきたいという形で落とし込んでいただいています。

そして、設置時期を早めたこともあり、当初想定していた香蘭地区という非常に立地のよい場所から郊外に移ったことをどう考えるかということについては、都市全体がキャンパスということで、これは以前から言っていることですが、それをどう具体化するかは今後の課題かと思います。

以上が、前回のご意見からの主な修正点かと思います。

それでは、委員の皆さんから自由にご意見を頂きたいと思いますが、まず、本日ご欠席の吉田委員から意見を伺っていますので、事務局から紹介願います。

○事務局（小川大学改革推進課長）

吉田委員からの事前意見について、まず、岐阜市立女子短期大学（以下「岐女短」という。）から新学部への連続性については、

「・岐女短が培ってきた理念や価値観、教育の蓄積がどう新学部につながるのかというストーリーを、明確に示せるとよい。

- ・『岐女短で育んできたものを時代に合わせて発展させた結果が今回の構想である』と説明できるとよい。」

次に、学部構想・教育内容について

- 「・衣食住など生活に根差した岐女短の伝統と、新学部の情報・データサイエンス領域との繋がりを見せるとよい。
- ・市民に対しては従来分野との繋がりも説明した方がよい。
- ・変わったのではなく、発展したと見えるような発信が重要。」

岐阜市が大学を持つ意義については、

- 「・市役所職員や地域企業、市民を支える人材の育成という観点を前面に出すと、市民の皆さんからご理解いただけるのではないかな。
- ・岐阜市には自前のシンクタンクとしての大学があるというメッセージは、市民にとって強いメッセージになるのではないかな。」

学部については、

- 「コース制であれば、学生の興味や入学者動向に応じて柔軟に人数配分を変えられるメリットもあり、よいのではないかな。」

都市全体をキャンパスとする考え方については、

- 「図書館、大学キャンパス、市街地などを有機的につなげる仕組みが作れると面白いのではないかな。例えば、岐阜市が実証フィールドになり、全国へ展開できるようなモデルになるような、市街地の移動手段のようなものができれば面白いのではないかな。」

最後に、

- 「開学まで時間はないが、魅力的な大学になるよう進めてほしい。」

との総括を頂いています。

以上です。

○杉山委員長

ありがとうございました。概ね先ほど整理した内容についてご意見をいただきました。データサイエンスや建築などに関連し、街の造りで特徴を持つというご意見も大きなポイントであったかと思います。

それでは、名簿に従ってご意見を伺いたいと思います。名簿の先頭に河野委員のお名前がありますので、恐縮ですがご意見を頂けますでしょうか。

○河野委員

前回欠席したため、事務局から前回の議論をおさらいとしてご説明いただきましたが、全体としては非常にまとまった形になっており、グランドデザインがしっかりとストーリー的に描かれているのではないかと感じました。

その中で二つ思ったことがあります。一つは、元々岐阜市の人材が流出しているところから、市の大学を選んでほしいというストーリーが描かれていたかと思いますが、デジタルやデータサイエンス、建築デザイン、そして薬学部という形があったとき、高校生は偏差値で大学を選んでいるので、本当にここに行って学びたいと思わせることを中高生に訴求できるかが大切になります。最近、中学生のうちからオープンキャンパスに参加しており、私の子どもも行っていますので、そのような中高生に対し、ここが面白いというものを見せられるような形にしたいと思ったとき、この特色でよいかということは、常に念頭において考えていただけると嬉しく思います。

もう一つは、杉山委員長も仰っていました文理融合についてです。教養科目の中で文理融合の形で落とし込んだということでしたが、理系大学で、建築デザインやデータサイエンス、薬学があり、それに特化した学びのためにそれが大好きな子たちが集まってくるというイメージがあるときに、あえて入れるのであれば例えば、先ほど「地域に開かれた」ということや、「地域と社会、産業界と一緒にあって」という言葉がありましたので、アカデミックと産業界や、アカデミックと社会が融合したという形を見せると、特色になるのではないかと思います。一つの参考ではありますが、対象となる学生に選ばれるような、また、地域の方や企業が一緒に盛上げていこうという形が見て取れるような特色があれば嬉しく思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。貴重なご意見を頂きました。受験生にとっても社会にとっても魅力的なものを見せる必要があるのかもしれません。また、文理融合という中で、専門性をどうきちんと担保していくかということは重要なご指摘かと思います。

これに対して市からご意見はありますか。

○杉原企画部長

ありがとうございます。頂いたご意見を踏まえて、前向きに進めていきたいとします。前回、中田委員からも、決めたところから改革を始めるくらいの意識をもたないといけないというご指摘を頂きましたので、そこに相通ずる意見だと感じました。今後、検討を進めていきたいとします。

○杉山委員長

受験生にとっての魅力として、専門性もちろんありますが、もう一つ、立地の問題もあるかと思います。香蘭地区という、市の中心部の方も郊外の方にとっ

でも魅力的な立地が予定されていましたが、それが少し離れてしまうということなので、よほど魅力的にしないと学生が集まるか懸念されます。その辺りも含め、受験生にとって魅力的だということは非常に重要なポイントかと思います。この視点については、棚橋委員からもお話しいただけるかと思います。

それでは受験生にとってどう映えるのかということを中心に、棚橋委員からお願いします。

○棚橋委員

ご説明ありがとうございました。受験生や高校生からどう見えるかということですが、正直に申し上げれば、まさに今、河野委員が仰ったように、偏差値で大学を選ぶということは現実として間違いなくあります。

もう一つは、少し先の話かもしれませんが、入試科目も結構大きいと思います。今回、(仮称)創造理工学部という名称を伺いましたが、おそらく、多くの高校サイドがこの名称を聞いたときに持つイメージは、その名のとおり「理系の学部だな」というものです。理系の場合、数学だと数学Ⅲという科目があり、理系を選択すればそこまで履修しますが、文系を選択した場合、ほとんどの学校では数学Ⅲまで履修しません。そうすると、数学Ⅲが入試科目に入るとその時点で半分、場合によってはそれ以上の子が受けられなくなることが起こり得ます。

本日の参考資料の中に、普通科高校の最終学年の理系の生徒の割合は 3 割程度とありました。そうすると、入試科目が数学Ⅲまで踏み込んだものになった場合、かなり絞られた子の進学先になってしまうのではないかと思います。資料の中に「多様性」という言葉もあったかと思いますが、多様な入学生をいかに確保するかという観点で見ても、創造理工学部という名称ではあっても入試科目はまた別の議論ということかとは思いますが、そこは今後、検討事項の一つになってくるのではないかと思います。

また、このお話を伺ったとき、おそらく高校サイドはこういうことを思うのではないかと思います。薬学部が市立大学として既にあり、そこにデータサイエンス系と建築デザイン系ができるとすると、具体的な大学名を出して恐縮ですが、名古屋市立大学(以下「名市大」という。)と非常に近いというのが私の率直な印象で、おそらく多くの高校の教員が感じることはないかと思います。名市大には薬学部もありますし、データサイエンス学部や、建築デザイン系として芸術工学部があります。そのときに、岐阜市立のこの大学を受験生が選ぶメリットや魅力をどこに持っていくかは本当に大きなポイントになってくるかと思います。

その中で、岐阜市の強みは何かということをおなりに考えているのですが、まさに今この場所のすぐ近くにあるメディアコスモスとの連携や、もちろん場所

を物理的に近づけることはできませんが、岐阜市が持っている資産や財産をうまく絡めることによって、他にはない岐阜市立であることの魅力が出てくるのではないのでしょうか。既に検討されているかとは思いますが、引き続き検討に入れていただければありがたいと思います。

○杉山委員長

まさに高校サイドからの重要なご指摘だと思います。私も、創造理工学部と聞いた瞬間に完全な理工系だと思いましたので、先ほどの文理融合の精神とどう繋がってくるのかは気になっています。そこには、現場における入試科目という大きなハードルをどう考えていくか、学部のイメージと内容とをどう繋げていくかという課題があるということで、受験のランキング表を見たとき、やはり理工学部とあると完全な理工系を想像してしまいますので、それに対し、どう対処するかは考えなければならないポイントかと思っています。

また、名市大という大きな大学との差別化をどうするかというところで、今、メディアコスモスも話題に上がりましたが、地の利というものが一番大きな利になるのだと思います。そこが三田洞になり少し難しくなることをどう緩和するかですが、市の資産という観点では、都市全体がキャンパスという方向性をもう少し詰めていってもよいのではないのでしょうか。例えば、岐阜駅にはハートフルスクエアGのような市有財産がありますので、そこにサテライトキャンパスを作るのも一つの手かと思っています。やはり、地の利を生かすことは高校生の集まりやすさの点で重要だと思います。

続きまして、中田委員からお願いします。

○中田委員

二つくらいの観点で申し上げようと思います。まず、教育の中身についてです。ご説明があった中で、理系や文理融合、様々な形での高校との接続など、いずれも受験生に選んでもらうためには重要な観点で、どれもないがしろにはできないことなのですが、建付けや見せ方から一步踏み込んで中身を見ると、人工知能やAI等の先端技術について、それ自体を対象として学びたいという意味ではよいのですが、今、大学教育がAIによって根本的に変わろうとしており、既に変わっているところもあります。

大学の教育方針はまだ変わっていなくても、現場の授業は完全に変化しており、レポートや課題が出ても学生がAIに聞き、それをそのまま写して提出することが起きていて、それに各教員ができる範囲で対応している状況ですが、データサイエンスや人工知能を学ぶという言い方自体が成立するかについても状況が毎年変化しており、少し前まではプログラミング技術をしっかり学

ぼうということでしたが、そういうものは不要だという話になりかねないところまできています。

もちろん、薬学の資格を取るといったことは制度上のことなので揺るぎないですが、一体何を大学で教えればよいのか自体が根本的に揺らいできています。卒業生が即戦力になるようにという考え方もありますが、それと同時に、この大学で学んだことを生涯にわたって使うことができる、自分の人生や社会の未来を切り開いていくことにずっと使える能力を大学で基礎づけなければならないということが非常に大事だと思います。

そのため、何をどんな組み合わせでどう教えるかということは、先ほど杉原企画部長も仰ったように日々考えて変えていかなければなりません。そうすると、もちろんどんな教育の特色を出すかも大切ですが、やはり強い教員組織をきちんと作っていくことが大事だと思います。何をもちえて強い教員組織というのがまた難しいですが、今は、これから大学の設置審査を通していく必要があり、こうした教育を行うのでふさわしい授業が必要であり、それに見合う教員が必要で、その資格がある人を採用できているかというところで審査されていくため、どうしても教員の採用について、例えばデータ分析が必要、AI が必要、文理融合であれば社会学が必要だと学問別に採用する形になりがちです。

しかし、そのような形で埋め込んだ授業に対し、カリキュラムを構成する側や設置認可を受ける立場では十分努力したという評価になりますが、それを学ぶ学生にとってどうか、その教員一人一人が展開する授業を全部足し合わせたときに教育目的に適うかどうかということは非常に難しい問題です。場合によっては、自身の専門性を拡張しながらでもこの新たな学部に必要な教育を作っていくという、覚悟のある教員を集めてマネジメントしていくことが一番問われるのではないかと思います。

データサイエンスを教えていけばよいということが 10 年、15 年言い続けられればそれはそれでよいのですが、大変抽象的で、答えがないかもしれないことを申し上げていることは重々承知の上で言いますと、改定案の「教育の特色」に書かれている特に 4 番目までが教育の中身に関わる箇所かと思いますが、いよいよ教員を採用するときにそうした側面も示しながら集めていただければと思います。

もう一つは、先ほどご説明があった、岐阜市として幼稚園から大学まで、そして生涯教育についても責任をもってやっていくという、総合的な岐阜市の教育政策の一つとしてこの新学部もあるということを、強く打ち出していただければと思います。

そもそも理系の高校生が 3 割しかいない現実の中、どう学生を集められるかということや、大学経営の立場から大学存続のために学生に入ってもらいたいとい

う発想は確かにそのとおりですが、岐阜市としてどのような人材をどういう形で育てていくのかというポリシーを、この新学部や市が展開している様々な初等・中等教育から生涯教育までを通じた大きな政策の中で考えていただくことが大事かと思います。名市大の例もありましたが、名市大では新たな中高一貫校を作って附属校にしようという動きもあります。これは大学の設計というより市への要望になるのかもしれませんが、やはり、大学をどうするかではなく市の政策として教育政策をどうするかを考え、附属校の設置や高大連携など様々な方法があるかと思いますが、大きな視点で教育政策を考える必要があるのではないのでしょうか。

特に今、国全体の方向性は大学や定員を減らすというところに強く出ているように見えますが、実は、非常に減っている 18 歳人口を社会の中にどう有効にアサインしていくか、子どもたち本人の意向を無視してはいけませんが、大学の 4 年間で有効な学びができないのであればその手前の段階できちんと学んですぐ社会に出ることや、高専の有効性なども含め、社会の中でその人を有効に、あるいは生産性の高い現場で働いてもらうという考え方にも強く出ています。

ただ、そうした画一的な考え方ではなく、そこに岐阜市なりの考え方を求められますし、高大連携の先にある附属校を活用する形があるのであればそういうものを作り、卒業後のリカレントにも繋げていくという市としての強い政策が必要ではないかと思います。それに伴って教員組織も強くなっていくのではないのでしょうか。

今、何をどう教えるかをどれだけ吟味してもそれは必ず変わっていくので、大変難しい話ではありますが、教育全体の仕組みと、教員組織をどういう理念をもって組み立てるかということに注力していただければと思います。

○杉山委員長

大学とは何かというところからお話を頂きました。非常に重要なポイントだと思います。

まず AI ですが、これも本当に現場では、レポートを書いてもらおうと AI が書いた内容で帰ってくるためどうしようもないので、もうレポートを出さないという話や、考える前に AI に答えを出してもらって終わってしまい、考えることができない学生がいるようであるとか、資料は作成できるが説明はできないといったことが起きていて、混乱している状況にあるように思います。

そうした状況の中で、強い教員がいないと前に進まないわけですが、それをどうするかは大きな課題になると思います。また、大学教員とは何かということに繋がるところで、なぜ研究する能力が必要かということ、新しいものを作り上げる能力があつてこそその大学教員ですので、そこまで考えて採用することになると

と思いますが、設置となるとどうしても人数を揃えることが先行するので、注意が必要な部分になるだろうと私も思います。

また、岐阜市の政策の中にきちんと位置付けることは大変重要なポイントで、まさにご説明にあったように、岐阜市の地域活性化政策の中でこの一連の初等・中等・高等教育を持っていることをどう強みとしていくのか、それをどう見せていくかはとても重要だと思います。

それでは廣田委員お願いします。

○廣田副委員長

前は欠席し申し訳ありませんでした。初回の委員会での方向性と変わったことは実感としてありまして、この委員会が始まったときに、岐阜薬科大学と一緒になったかどうかという話をした記憶がありますが、その方向になってきたことは嬉しく思うと申しますか、それしかないだろうと思っています。先ほど中田委員も仰ったとおり、文科省が大学の数をどんどん減らそうとしている中で新しい大学の認可を得ることは難しいだろうと思っていましたので、やはりそういう方向になったかというのが正直なところです。

ただ、この創造理工学部について、教育内容のことは私は専門家ではないので先生方にお考えいただければと思いますが、理系という形になったため、どうしても流行りのようにAIやIT、データサイエンスばかりになっているように思います。しかし、今の若者に非常に人気があるのは何か、若者が何を考えているかという、例えば寿司職人や大工など、手に職を付けることを一生懸命に考えています。AIではできないことをやりたい、必要とされる人間になりたいということを今の若者はとても考えているので、極端に言えば、そういうことも考えてもよいのではないかと思います。そうしないと、先ほど名市大の話が出ましたが、全く同じようなものができてしまい全く差別化になりません。差別化を考えていかないと生き残れないのは事実ですので、これは一つの提案ですが、そういう発想も持つ必要があると思います。

今はAIが持て囃されていますが、AIで経営してうまくいった会社はありませんので、やはり人間が考えていかないといけないと私は思っています。ですから、こうした今の若者が考えていることを見逃してはいけないのではないかと思います。

また、先ほど岐阜市の政策としてという話がありました。私も以前申し上げましたが、岐阜市には市立岐阜商業高校があり、幼稚園から大学までありますが、それを一貫教育化や附属化すればよいのではないかと思います。乱暴な言い方で恐縮ですが、それが魅力であると言ったとき、実現可能性があるのであれば、岐阜市の政策としてそれを実施する必要があるのだろうと思います。

もう一つは以前から申し上げている立地の問題です。私が副会長を拝命している商工会議所から「ぎふまち未来ビジョン」というものを出しましたが、その中ではまちづくりが一番のテーマになっています。まちなかに若い人に来ていただきたいですし、大学もあってほしい。それが、まちを活性化する一番の方法ですので、ぜひとも大学をまちなかへ持ってきていただきたいと思います。香蘭地区以外にも岐阜市には空いている土地がたくさんありますから、その活用も含め、大学をまちなかに持ってきていただけるとありがたいです。

以前もお話ししましたが、今、十六銀行が市役所跡地に本社を作られています。本来であれば、名鉄岐阜駅前の社屋を建て替えればよいわけです。行員の反対も多くあったそうですが、なぜ市役所跡地に持って行ったかという、それは人の流れができるからです。そこから人が駅まで歩くと、その間にお金を遣いますので、そうしたことがまちの活性化に繋がるという発想があり、あえてあそこに本社を作ることを決めたということです。このように、民間は本当にいろいろと考えていますから、それを踏まえて、この大学はどうあるべきか、市立大学はどうあるべきかということを岐阜市の政策としてぜひとも真剣に考えていただきたいと思います。

また、中田委員も仰ったとおり、教員の方の覚悟は大きな課題になってくると思います。教員もなかなかいらっしゃいませんし、給料次第という話になるのかもしれませんが、そこは課題だと思いますので、学部の分野は真剣に考えなければならぬ部分だと思います。

岐阜市の政策としてまちづくりをぜひ考えていただきたいですし、一貫教育を考えるべきではないかと思っています。また、若者は手に職を付けることを本当に一生懸命に考えているということだけはお伝えしたいと思います。よろしくお願いします。

○杉山委員長

ありがとうございました。現場が実際にどこで悩んでいるか、まちの活性化に大学がいかに重要かということをお話しいただきました。

また、実際に若者が望んでいることについて、資格等の取得や、AI の隆盛によるホワイトカラーからブルーカラーへの移行という流れもある中で、建築士というのは時宜を得ているのではないかと思います。一方で、データサイエンスという多くの大学にあるものを、先ほど中田委員も指摘されたように学びと言ってよいのか、また、それをどう活用するかを考えたとき、位置付けをどうするかという視点もあるかと思います。

少し間が空いてしまいましたが、ここまでで市の方からご意見があれば伺いたいと思います。その後、大田委員からお話しいただきたいと思います。

○杉原企画部長

ありがとうございます。名市大については、近隣大学であり近い関係にあるため、ライバルにもなり参考にもなる事例としてお示しいただいたものと思います。名市大がこれから中高一貫の附属学校を作ろうとしていることも踏まえて、岐阜市としてどう差別化していくかというご示唆を頂きました。お二人の委員から、附属校の検討や一貫教育についてのご意見を頂戴しました。これまでの本委員会の議論の中にも高大連携というテーマがありましたので、それをバージョンアップしてはどうかというご意見と受け止めています。

元々、岐阜市は市長が教育に力を入れており、教育の指針を示す教育大綱を市長、教育長、教育委員で検討する「岐阜市総合教育会議」を、毎年数回必ず開催しています。

先進的な教育とは何かということを大切にしているのが岐阜市の教育だと考えています。例えばその事例としてご紹介すると、草潤中学校では、学校に足が向かない子どもたちに対し、ありのままを受け止め、その子に応じた学習環境を整え、その中で子どもが自分自身で選択と行動ができ、新たな可能性を見出していくという教育を行っており、そうしたトライを市全域へ広げていく取組を行っています。草潤中学校は「学びの多様化学校」と言いますが、岐阜市は中部地方で初めてこの学校を公立で作りました。このように、岐阜市には先進性もあると自負しています。

この他にも、義務教育学校という比較的新しい形の学校で、小学校と中学校の計9年間で束ねた児童数が比較的少ない学校を岐阜市では2校作りました。まだあまり事例がない中で、岐阜市は早期に設置したと思います。開校したばかりの藍東学園では、好きなことを異年齢の集団で学ぶファミリーという学級編成や、専門的な学びも保証しつつ、教育センターラボ方式として一人一人の好きなことや得意を伸ばす教育を行うなど、未来志向の学校を作っています。そうした新たな教育にチャレンジする土壌が岐阜市にはありますので、委員の皆様から、他大学との差別化や、大学だけではなくその前段階についても、一貫教育を含め、先進的なものを取り入れつつ教育そのものの在り方を考えていくべきというご意見を頂いたことは、大変ありがたく思っております。

○杉山委員長

ありがとうございます。小中高大という連続性のある教育が何をもたらすのか、また、何が必要なのかという視点で考えなければならないと思います。名古屋市では中高という流れを作り、岐阜市では小中という流れがあるので、それを高大接続や附属校へという考え方は十分あり得ると思います。よく言われるのが、小学校、中学校のときは理科や数学が好きだった女子生徒が、高校受験にな

ると皆文系へ行ってしまうという話です。先ほど理系は 3 割という話もありましたが、それは理系の素養を生かし切っていないということかもしれません。文系を軽視することは私は違うと思いますが、一方で、本当は理系の素養がある子たちが理系へ進学していないということがあるかもしれませんので、それが岐阜市にどう影響するかにもよりますが、一貫して物事を考え、市の政策やまちづくりに生かしていくということは大事だと思います。

それでは、現在岐女短の学長を務めている大田委員から、これから具体的な中心になられると思うので、今までの議論についてご意見をお願いします。

○大田委員

様々な示唆に富んだサジェスチョンをありがとうございました。複数の委員から社会科学系の要素をどう入れていくかというご指摘がありました。まさに今、ワーキングチームの中でも議論を進めており、文理融合が目的ではなく、要はどういう人材を育てたいかということかと思っています。

釈迦に説法で恐縮なのですが、岐阜市未来共創プロデューサーに就任いただいている慶應義塾大学の宮田裕章先生は、AI がどう進化しても正しい問いを立てられるのは人間だけなので、正しい問いを立てられるような人材を育成する必要があり、AI を教えることはその手段にすぎないかもしれないと言っておられました。その観点でいくと、何を教えるかが変わっても、育てていきたい人材は、問いを立てられる力がある人材や、リベラルアーツや哲学を学び、いろいろな人とちゃんとコミュニケーションできるような人材ではないかと個人的には思っています。

そうして、地域に入っていくと地域の困りごとを一緒になって解決できるような、そういう共感力を持った人材に活躍してほしいと思っていますので、コミュニケーション力や共感力をツールとして身につけるようなイメージで考えています。これはあくまで私の個人的な意見ですが、そうした部分を単に味付けではなく真剣にやると、それが非常にアピールポイントになりますので、新たな学部の特徴として本当に面白いものになり、地域と交わり連携しているという大学の特色の一つになるのではないかと思います。これから、そうした部分をワーキングチームの中でしっかり議論していきたいと思っています。

○杉山委員長

ありがとうございました。文理融合が目的ではなく、専門性も担保しながら、しっかりと社会科学系や文系の要素をもって考えることができる人材を育てる必要があるのだと思います。AI に質問したとき、答えが間違っているかもしれないと考えず、そのまま鵜呑みにしてしまうと間違えることがあるかもしれ

ませんので、これからはそうした力が必要になると思います。

いろいろなご意見を頂きました。昨年度までまとめてきたものから少し変わった中で、次に向かって動き始めているということに対し、概ねご理解を頂きながらのコメントだったかと思います。

今までの議論を踏まえてご意見がありましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○廣田副委員長

令和 11 年度に開設と伺いましたが、それは時期的に間に合うものですか。ちょっと大変なことなのではないかと思うのですが。

○原理事長兼学長

仰るとおり、決して余裕はありません。ただ、大学設置と学部設置では全く違い、申請だけでよいということもありますので、今回、大学から学部へと変更したことで可能になったと我々は判断していますし、可能にするようなシナリオを作っていかなければなりませんので、ここにいる皆様と連携し、力をお借りして実現したい、実現できと思っています。

○杉山委員長

意気込みをお聞かせいただきました。私は、これはおそらくかなり厳しいスケジュールだと思っておりますし、先ほど中田委員のご発言にありましたが、強い教員組織を準備することは大変難しいことだと思っています。しかし、そこは何とかしなければならぬ状況だということで理解しました。

いろいろなご意見を踏まえて、河野委員から何かありましたらお願いします。

○河野委員

全く別の観点でもよろしいでしょうか。資料 3 の 21 ページに収支の概算が出ており、学部の収支ですので、おそらく教員と事務局の人件費、物件費としてその他費用と記載されているのかと思います。地域との連携を考えたとき、この中に共同研究や知的財産、ライセンスといったことで産学連携を仲介、翻訳する人たちが必要ではないかと思いますが、学部の追加だとすると、岐阜薬科大学に既にそうした部署がありそこでカバーするのか、新しい部署を作ろうとしているのか、どちらをお考えでしょうか。

○原理事長兼学長

河野委員のご発言のとおり、岐阜薬科大学が全面的にフォローしていきます。

本学には研究企画 URA 室（※）がありますし、産学官連携の部門も持っており、手前味噌ですが実績もあるので、そこでしっかりと見ていきたいと考えています。

新学部と薬学部はスタンスが少し違うと思っており、以前も申し上げたように、その良し悪しは別として岐阜薬科大学は全国の学生に来ていただける大学で、グローバルに発展するイメージでやってきており、それは今後も変わりません。一方で新学部は、資料にもあるように地域に本当に密着したものを真剣にやっていこうと考えています。建築もデザインも、本当のところは情報サイエンスと言うべきかもしれませんがデータサイエンスも、岐阜市にはその出口がたくさんあります。本日もデータサイエンスの会社に行ってまいりましたが、企業と一体で出口を開発していくにあたり、そうした企業から実務家教員を派遣してもらうことも考えられます。薬学部のようなスタンスでもよいのですが、それよりも地域に密着することにフォーカスし、先ほど話が出た高大連携にも繋げていきたいと思っていますので、そこを明確に区別して産学官連携を行いたいと考えています。

※研究企画 URA : Roles of Office of Research Planning, University research administrator

研究者とともに行う研究プロジェクトの企画・提案・交渉、産学連携のコーディネート、研究計画等に関する関係法令対応状況の精査、研究プロジェクトの会計・財務・施設管理、研究プロジェクトの進捗管理などを担う部署。

○河野委員

ありがとうございます。安心した一方で、原学長が仰ったように、薬学部の場合はグローバル展開や創薬など、大企業との連携が多いのではないかと思います。新学部は地域との連携なので、例えば中小企業や、起業でもスモールビジネスが多く、また産学連携だけでなく地域の人たちと触れ合って教育や連携、研究を広げていくことになるかと思います。そうすると、関係する人が変わってくるかと思いますので、そこを気にしながら雇用や採用に繋げていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○杉山委員長

既に岐阜薬科大学ではそのような枠組みを持っており、加えて、おそらく岐阜市も共同でやられるかと思います。岐阜薬科大学、あるいは薬学部の次のステップへと繋がっていくことですので、そこが新たな強みとなり、統合した意義にな

ればよいと思います。非常に重要なご指摘でした。

ここまでの話について、高校の立場から棚橋委員いかがでしょうか。

○棚橋委員

皆さんのお話を伺う中で、岐阜市としての政策的な面、大学としてどういう人材を育てていきたいかという面、そしてどんな大学像だと高校生が選びやすいかということが、全て合致すれば方向性も決まるのですが、高校生もいろいろな価値観をもっています。

より多くの高校生が選びやすい大学ということは大切ですが、その部分と、岐阜市としてどういう学校を作りたいのか、どういう人材を育てていきたいのかということは、すり合わせが課題だと感じました。

また、大学の本来のミッションは、学生がリベラルアーツなど様々なことを広く学ぶ中で、将来自分が社会にどのようなことで貢献できるかを考えさせていくことだと思います。一方で、高校生や保護者の視点に立つと、そこに進学すると将来どのような道が開けるのかという将来像がある程度クリアになっていないと、選択しづらいという面もあります。

○杉山委員長

ありがとうございます。高校生が見て魅力的に思うか、将来が描けるかということですが、これから作るものに対して将来というのはなかなか難しいとは思いますが、具体的な教育内容等々を見せながらイメージを作っていくことがこれから必要になっていくのではないかと思います。

中田委員から、これまでの議論を踏まえてご意見があればお願いします。

○中田委員

同じことの繰り返しになるかもしれませんが、何を学んだらどんな職業につけるかといったことは本当にどんどん変化しているので、その時々で様々なことを考えていく必要があります。また、短大を4大化する、学部として組み込むということは、大学がやるというよりも、シビックプライドという言葉もどこかに埋め込まれていましたが、岐阜市がいわゆるそういうものとして行うことだと思います。岐阜市としてこうした教育を大切に、大学や、その手前の段階の教育で魂を込めて人を育てるというメッセージが発信できれば一番よいと思います。

何が人気か、何が役に立つかということは移ろいますが、岐阜市が一貫して応援しているということは揺るぎないことだと私は思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。教育は社会事業ですので、社会がその必要性を認めない限りは成立しません。そのため、生き残りなどということは社会事業として本来あってはならない話だと思っていますので、社会がこの新学部、新大学をいかに必要とするかというところを岐阜市がしっかりとアピールすることが重要ですし、政策に位置付けることが必要になるのではないかと考えます。

大田委員から何かありましたらお願いします。

○大田委員

いろいろなご意見をありがとうございました。冒頭、吉田委員の事前意見で、岐女短が今まで育んできた歴史やストーリー、市民の皆さんに非常に愛着を持っていたいているようなところを、単に維持するのではなく次の段階に高めて新しい大学に生かしてほしいというサジェスチョンを頂きましたが、本当のその通りだと感じています。

先ほど申しましたように、岐女短は非常に市民の皆さんに近いところで衣食住の学びの場としてやっていたということを、新学部においても地域連携で生かしていければよいと思いますし、薬学部に対しても、何らかの相乗効果があると思います。漠然とした話で申し訳ありません。

○杉山委員長

ありがとうございます。これまで培ってきた衣食住という岐女短の強みや特徴を強められる部分もあるのかもしれませんが、そこは見せ方もあるかもしれませんが、重要になってくる部分だと思います。

先ほどの話に戻りますが、高校生がいかに魅力的に思うかという棚橋委員のご発言は本当に重要で、魅力的であることの象徴が偏差値という形で現れると思いますが、最初の段階である程度魅力的なものを作っておかないと後から上げるということはとても難しいので、ロケットダッシュと言いますか、最初の段階で高校生に魅力的に映る方向性を示した学部を作ることが必要になってきます。

その観点で、開設を早めたことについて、先ほど立地の話が廣田委員からありましたけれども、やはり立地は重要になるのでぜひお考えいただきたいと思います。おそらく受験生は岐阜市周辺や愛知県北部が中心になりますので、駅周辺に学生が学びやすい画を描いていただき、先ほど香蘭地区でもまだ足りないというご意見もありましたが、少なくとも駅から近いという意味ではかなりメリットがあり、私としては受験生を集める上で非常に良いと思っていますので、駅をうまく生かす方法を検討いただければと思います。

この辺りについて、岐阜市からいかがでしょうか。

○杉原企画部長

ご指摘のとおり、岐阜市にはハートフルスクエアーGがありますので、それを生かせる可能性はあるかもしれません。より魅力的な大学に映るような仕掛けは今後も考えていきたいと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。まだ少し時間がありますので、せっかくの機会ですから他にもいかがでしょうか。岐阜市には小中高大、そして保育所までありますので、その強みやそれを連携させると何が生まれるかということを含め、連携すればよいというものではないかもしれませんが、もう少し具体的なところまでお伺いできればと思います。

○杉原企画部長

少しご紹介すると、岐阜市には幼稚園が2園ありますが、2年ほど前のソニー幼児教育支援プログラムの保育実践論文コンテストで加納幼稚園が最優秀園に選ばれました。そこでは、子どもたちの興味関心にとことん付き合い、幼虫を育てるとチョウになった、ガになったという自然科学の発見を行いました。そこには命に関する学びもあります。そうした教育を幼児期から行っていけることが岐阜市の強みであると思います。

また、幼児が合わせ鏡に疑問をもったとき、幼稚園の先生が不思議の追求に付き合い、先生が分からないと今度は小学校の先生に Zoom など教えてもらう、更に学びを広げて科学館の先生に聞くなど、興味を掘り下げ、探求するという学びを小さい頃からやっていくということを岐阜市の教育では行っています。探求学習は様々な形がありますが、それが幼小中高と繋がり、今度は大学の学びに繋がっていくと大きなものになっていくのではないかと思います。

このような岐阜市として大事にしているものについて、社会人として世に出るときに共通する大事な学びとし、人間性も含め、我々が目指す人物像を育てるためには、大学だけではなくその手前の高校や中学校、更に小学校や幼稚園も含めて大切にしていける必要があるというご示唆を頂きました。大変学ばせていただきました。ありがとうございます。

○杉山委員長

ありがとうございます。そうすると、課題探求のようなことになるのでしょうか。そこには理系の素養が背後にあり、教育の連携の中でそれをしっかりと進め

ていくといったときに、それがどう岐阜市が必要とする人材に向かっていくのかを整理する必要があるかと思いますので、教育の連続性と求める人材、その過程を整理できるとよいのではないのでしょうか。それが岐阜市の強みになれば素晴らしいことだと思います。

いかがでしょうか、他に何かご意見ありますでしょうか。よろしいですか。（意見なし）

それでは意見も出尽くしたようですので、概ねこの基本方針については皆さんご理解いただけたかと思います。また、頂いた意見は整理し、改定案にどう落とし込むかは私の方で引き取らせていただいて、岐阜市とも少し調整して改定案をまとめ、パブリックコメントにかけるという形で進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。（異議なし）

ありがとうございます。それではこれで本委員会を閉じたいと思いますが、その前に、せっかく 2 年に渡ってこの議論をさせていただいたので、委員の皆さんから感想など何か一言ずつ頂ければと思います。

河野委員からお願いします。

○河野委員

2 年間お疲れさまでした。これで終わりではなくこれからスタートですが、どうもありがとうございました。このように、大学や学部を新しく作るというところからの委員会に初めて参加させていただき、普段大学で行っている学ぶ、教育するという形とはまた全く違う形で地域に携わることができたと思っています。

大学で教えていること以外にもいろいろと考えなければならぬことがあるということ、私自身が非常に勉強させていただく機会になりましたので、これをまた次の教育の機会に生かしていきたいと思っています。

様々な意見がありましたので、全てを取り入れるわけではないと思いますが、ぜひ岐阜市の方で良い方向へ持っていっていただけることを期待しています。

委員会は終わりかと思いますが、ご縁は終わりではありません。近いところにいるので、また連携させていただければと思います。どうもありがとうございました。

○杉山委員長

ありがとうございました。それでは、今回最初で最後のご出席となり恐縮ですが、棚橋委員からお願いします。

○棚橋委員

本当にありがとうございました。冒頭の挨拶でも申し上げましたが、岐阜県高

等学校長協会を代表させていただき、本日のお手元の資料にもありますが、石田元会長、小野前会長そして私と 3 人に渡りこのような会議にお招きいただき本当にありがとうございました。

高校の立場としては、先ほど申し上げたように、市が描く理念や大学が描くものと実際の高校生との思いをいかに埋めていくかが難しいと思っています。

そのような中で、高校側の意見を聞く機会を設けていただけたことは大変ありがたく思っています。また、私個人の思いを述べさせていただくと、大学、最終的には新学部を作ることになるとは思いますが、すごく夢があると申しますか、やはり将来に向かっての事業というものは楽しみだと感じています。それだけ市民の方も期待していると思いますし、もちろん高校側としても、地元の大学ですので、本当に良いものが出来上がってくると大変嬉しく思います。どうか引き続きよろしくをお願いします。

○杉山委員長

ありがとうございます。石田委員、小野委員とご意見をお伺いし、途中で高校からのこの大学はいつできるのかという期待も教えていただいて、それが我々の背中を押してくださいました。高校側のご意見は非常に貴重なものでしたし、おそらく次のステップで非常に重要になりますので、今後ともご指導いただければと思います。

それでは中田委員、お願いします。

○中田委員

ありがとうございました。いろいろと勉強させていただきました。

新しく大学を作るということは、もちろん岐女短の実績を踏まえてということではありますが、やはり最初が肝心と申しますか、理念をしっかりと示し、そこにコミットしていただける教員をしっかりと集めること、それに尽きると思います。

期待していますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。

○杉山委員長

ありがとうございました。中田委員からは大所高所から、大学はどうあるべきかという観点からのご意見を頂きました。厳しいご意見もありましたけれども、まさにそうした荒波の中にいるということが今回の計画改定の中でも出てきていると思います。いろいろと貴重なご意見をありがとうございました。

それでは廣田委員、お願いします。

○廣田副委員長

もう 2 年が経つということで、本当にあっという間でしたが、ありがとうございました。好き勝手なことを申し上げて申し訳ありませんでした。

当初から私は、岐阜薬科大学は岐阜市にとって本当に大切なブランドだという話をさせていただいています。これを生かすべく新しい大学を作っていたきたかったのですが、この要素をうまく加味できないか、両大学を一緒にして更に付加価値を増すことができないかという発想を持っていました。岐阜薬科大学は市立なのかと驚かれることもよくありますので、せっかく岐阜薬科大学が頑張っておられて、これだけのブランドになっているものが、今回こうした形になってその価値を落とすようになってしまったら全く意味のないことになってしまうということだけは、ぜひとも岐阜市の皆さんの念頭に置いていただきたいと思います。

これをより高めるためにどうするか、そして、岐阜市の活性化に結びつけるためにはどうするかということを、岐阜市の皆さんがぜひとも真剣に考え、動いていただきたい、これだけです。よろしくお願いします。

○杉山委員長

廣田委員からは、岐阜市やまちづくりに対する思いが本当にひしひしと伝わってくるコメントをいつも頂き、心強く思っていました。どうもありがとうございました。

それでは大田委員から、抱負も併せてお願いできればと思います。

○大田委員

杉山委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては 2 年間大変ありがとうございました。非常に貴重なご意見を毎回頂きました。個人的な感想ですが、本当に真剣にご議論いただき感謝を感じていました。それを繰り返す中で案が徐々に良くなってきて、非常に引き締まった、いわば筋肉質な案になったのではないかと本当にありがたく思っています。

また、一方で感じたのは、市民の皆さんの関心がとても高いということです。いろいろなところでご質問を受けることがあり、それだけ岐阜薬科大学や岐女短が市民の皆さんに愛されているということだと思います。先ほど廣田委員も仰いましたが、これをまとめていくのは重大な責任だと思っていますので、これから皆様の意見をさらに引き継いで頑張っていく所存です。

2 年間どうもありがとうございました。

○杉山委員長

どうもありがとうございました。

最後に私から一言申し上げます。

この話を頂いたとき、先ほども述べたように、生き残りのためということならば引き受けないが、私はこの大学が必要だと思うので、きちんと社会事業として成立する形にするにはどうしたらよいかということであれば引き受けさせていただくということを最初にお伝えしました。今思えば、大変言いたいことを言わせていただき、事務局にはご負担を掛けたかと思います。

最終的に見ると、それなりの形に固まってきたかと思います。これをどう具現化するか、また、文理融合と専門性の担保との整合性をどう付けるか、高校生から見て魅力のある大学にするにはどうするか、社会や岐阜市民にこの大学をおらが大学だと思ってもらうにはどう持っていくのかということが非常に重要だと思っています。

これから本当に大変な作業を短期間で行わなければなりませんので、もしできることがあればご協力したいと思いますし、頑張ってくださいと思います。皆さんのこれまでのご議論に感謝申し上げます。

それでは、事務局にお返しする前に、これからのことがありますので原学長からコメントを頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○原理事長兼学長

この2年間、皆様お忙しい中、東京や名古屋からお越しいただき本当にありがとうございました。本日伺った一つ一つのご意見が本当に心に響いており、全てが私の記憶に残っています。

私の思いとしては、ただ大学を作るだけとは思っていません。先ほど名市大や差別化の話がありましたが、我々は我々の大学、新学部を目指したいと考えており、決して金太郎飴のようにではなく、他大学と同じデータサイエンスという名前であってもこの大学は違うのだという思いを持っています。やる気をもって挑戦していくという風土や文化は一朝一夕ではできません。理念をしっかりと作るようにとのご意見がありましたがまさにその通りで、それがあつた上で常に改革していきたいと考えています。

学生にはわくわくした気持ちをもって、ぜひこの大学に行きたい、楽しそうだと思ってほしいですし、卒業生には良いところへ行ってもらいたいと思っています。そのように活躍できる人材をいかに育てるかが我々の役目ですので、1年目、2年目で偏差値が下がるのは避けたいことではありますが、長い目で良い学生を育てたいと考えています。

中田委員が仰いましたが、いくら良い学生が入ってきても教員のレベルが低

いといけませんので、しっかりしたものを作るためには、学生と共に我々教員も同時にレベルアップしていく必要があります。岐阜薬科大学も今に甘んじることなくレベルアップし、改革していかなければなりません。変わらないということは、今の時代では敗退することですので、改革し前進することはリスクがあっても必要だと思っています。

AIの話もありましたが、Beyond AIやAIを超えたもの、例えば先ほどのご意見にあった手に職をつけることや考え方を身につけるといった、少し変わった面白い良い大学という方向を目指したいと思っています。それを理念に落とし込むのは大変ですが、私の気持ちとしては、常に改革し変わっていく、そして皆の理想とする大学になり、地域と一緒にやっていけるとよいと思っています。

思いを語らせていただきました。最後に、皆様からの貴重なご意見、ご指導により今日を迎えたことを心から御礼申し上げます。本日で終わりではありません。今後もお世話になりますが、引き続き何卒よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

○杉山委員長

どうもありがとうございました。思いや理念といったとても重要な言葉を頂きました。また、岐阜薬科大学も変わるのだということが非常に印象的でした。

ぜひとも素晴らしい大学をこの機会に作っていただきたいと思います。このお願いをしまして、マイクをお返ししたいと思います。

3 閉会

○事務局（小川大学改革推進課長）

杉山委員長をはじめ委員の皆様方、ありがとうございました。最後に企画部長からお礼のご挨拶を申し上げます。

○杉原企画部長

委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、長期間にわたり岐阜市立新大学準備委員会の活動に参画いただき、誠にありがとうございました。

振り返りますと、本委員会では、新大学の理念や方向性、地域に果たす役割など、毎回大変活発で真摯なご議論を重ねていただきました。委員の皆様それぞれの立場や経験に基づく多様なご意見は、私ども事務局にとっても多くの学びがあり、新大学の構想をより確かなものへと導いていただけたと感じています。

本日をもって本委員会は一区切りとなりますが、ここまで積み重ねられたご議論やご提言は、今後の新大学の設置に向けた取り組みの礎として生かしてまいります。

事務局を代表し、これまで賜りましたご尽力、ご支援に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

○事務局（小川大学改革推進課長）

それでは、以上で本日の会議を終了します。お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございました。